

ページ	見出し	該当箇所	誤	正
20	世界第2位の農産物純輸入国	表1	①フランスとカナダの純輸入額 ②単位：億ドル	①フランスとカナダは純輸入額の <u>数値を削除</u> ②単位： <u>US</u> 億ドル
20	アメリカへの輸入依存度が高い日本	1行目	農産物輸入相手国を見ると、第1位はアメリカで <u>24.5%</u> 、	<u>2018年</u> の農産物輸入相手国の第1位はアメリカで <u>23.4%</u> 、
20	アメリカへの輸入依存度が高い日本	図1	トウモロコシの円グラフ 米国、ブラジル、 <u>ウクライナ</u> 、その他	トウモロコシの円グラフ 米国、ブラジル、 <u>南アフリカ</u> 、その他
26	若い世代が多い花き農業分野	表1	(資料：農林水産省「 <u>農林水産統計・平成28年度農業産出額及び生産農業所得</u> 」)	(資料：農林水産省「 <u>花きの現状について：令和元年12月</u> 」)
26	若い世代が多い花き農業分野	2行目	2017(平成29)年産は <u>3438</u> 億円(花木を含む)で、	2017(平成29)年産は <u>3687</u> 億円(花木を含む)で、
26	花きの国内生産と輸入	1行目	2017年の花きの総需要額( <u>4284</u> 億円)のうち、	2017年の花きの総需要額( <u>4198</u> 億円)のうち、
39	6次産業化と農商工連携に関わる法律	見出し	<u>6次産業化と農商工連携</u> に関わる法律	農商工連携に関わる法律
55	「適応計画策定」の経緯	表1 野菜 おもな適応策 3行目	・干ばつ時の <u>病虫害</u> 防除技術の普及	・干ばつ時の <u>病害虫</u> 防除技術の普及
85	植物体内の有機物合成の基礎	図2	アミノ酸からタンパク質に向かう <u>矢印がない</u>	アミノ酸からタンパク質に向かう <u>矢印を追加</u> ※ <u>図2参照</u>
96	確実に子孫を残す花芽形成	12行目	一定以上の日長時間で花芽分化する「 <u>日長植物</u> 」	一定以上の日長時間で花芽分化する「 <u>長日植物</u> 」

97	「短日・中性・長日植物」の環境適応力	11行目	◆「長日 <u>作物</u> 」の多くは温帯が原産地。	◆「長日 <u>植物</u> 」の多くは温帯が原産地。
114	化学肥料と有機質肥料…それぞれの特徴	3行目	しかし与えすぎると <u>肥焼け</u> の心配がある。	しかし与えすぎると <u>肥料焼け</u> の心配がある。
115	化学肥料と有機質肥料…それぞれの特徴	表1 その他 化学肥料 3行目	与えすぎると <u>肥焼け</u> が心配	与えすぎると <u>肥料焼け</u> が心配

p85 図2

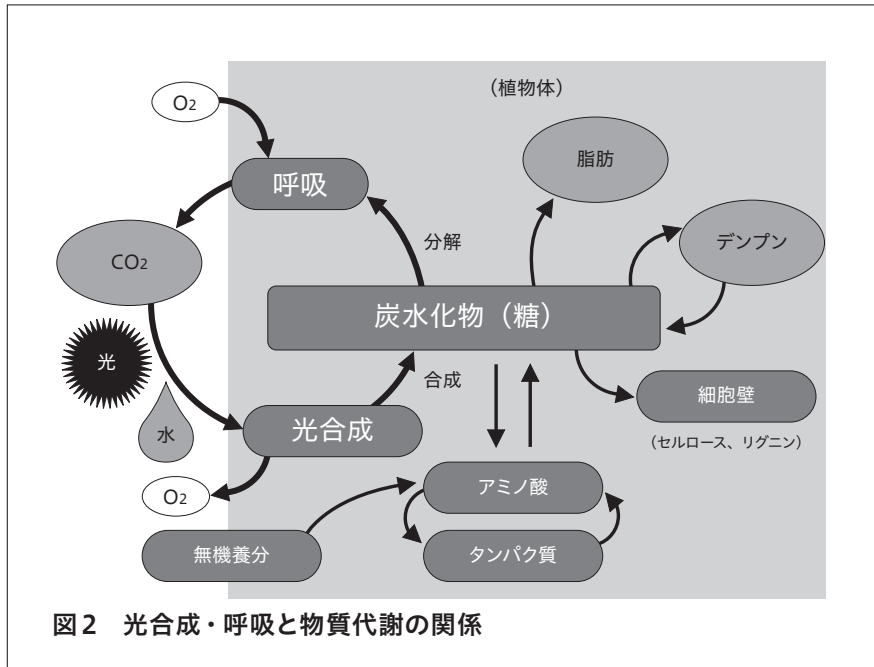


図2 光合成・呼吸と物質代謝の関係